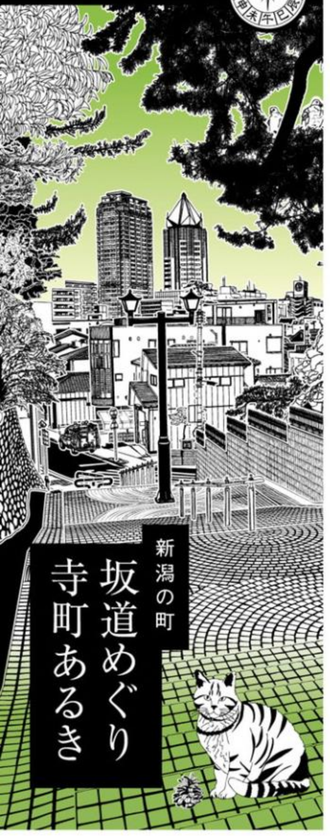
新潟の町
坂道めぐり 寺町あるき

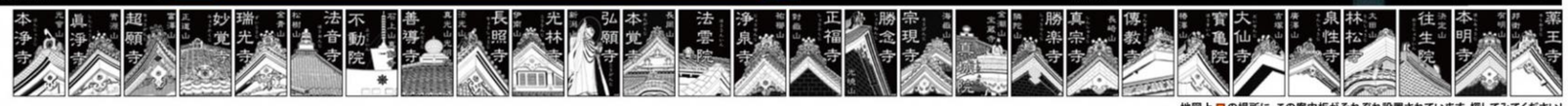


坂から見る町 寺から知る町

浜寄り砂丘（裏表紙イラストの鳥段上）から見下ろす新潟の町

越後平野は、信濃川や阿賀野川などの河川が運んだ土砂が堆積してできた沖積平野です。その河口に位置している新潟の町は、昔から砂と戦い、砂によって生まれた土地を活用して発展してきました。

町には今も砂丘があります。海岸線に沿うように連なるこの砂丘は、昭和の時代まで成長を続けてきました。飛砂の害から町を守ってきた松はそこかしこで枝を広げ、整然と並ぶ寺町は砂によって町の形が変化した昔を教えてくれます。砂丘に沿って時代をさかのぼると、町と人々の歴史が鮮やかによみがえってきます。新潟の町の特徴的な風景である「坂」と「寺町」を、ぜひ歩いて体感してみてください。



地図上 ■ の場所に、この案内板がそれぞれ設置されています。探してみてください！

NEXT21展望室から見た寺町

西堀寺町設置の案内板（左）には、お寺の歴史やゆかりの出来事などが記載されています。ぜひ現地でチェックしてみてください。

新潟の町 坂道めぐり 寺町あるき

新潟市中央区 学校町・旭町・西大畑・二葉町・田中町・西堀通界隈

まちあるきの際には、近隣の方や通行する方のご迷惑にならないよう、節度ある行動をお願いいたします。

〈見方・使い方〉

折りたたんでページをめくるように見てください。

裏も同じように真ん中で折り返し、たたんでください。

●イラスト・写真・構成：野内隆裕@にいがたなじらねっと
（★印画像の図版は野内隆裕所蔵のもの）
●デザイン・本文：上田浩子@オフィスカイ
●協力：新潟市歴史博物館　みなとびあ
●制作協力：roji-ren niigata、にいがた寺町からの会

企画制作 新潟市
新潟市中央区学校町通1番町602-1　TEL025-228-1000

※無断転載・複製を禁じます。

2011.3 初版発行

新潟町の誕生と変遷

砂丘と町

1 砂州と砂丘

新潟の町は、信濃川や阿賀野川が運ぶ土砂で地形を変化させてきました。河口に運ばれた土砂が潮に押し戻されて作った砂州は、次第に岸に寄り付いて新しい土地になりました。一方、内陸に飛ばされた砂は砂丘を作ります。海岸寄りの砂丘は、分水路などの建設で土砂の量が減る近年まで成長を続けていました。

川は海岸砂丘に流れを妨げられ、河口の位置を変化させます。図1を見ると、この時代の信濃川と阿賀野川は河口が同じ場所で、川幅の広い信濃川には**寄居島**、**白山島**という大きな中州があるのがわかります。

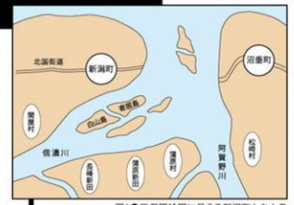


図1●正保国絵図に見える新潟町と白山島
（「正保2（1645）年越後国絵図」（新発田市立図書館所蔵）から作成）

2 明暦の移転

戦国時代の終わりから江戸時代のはじめ頃まで、新潟町は今の場所ではなく、砂丘の上にあったといわれています。元禄11（1698）年の絵図（図2）には**古新潟町跡**という記載が残されています。

寛永15（1638）年、新潟を統治していた長岡藩主・**牧野忠成（まきのただなり）**は、信濃川の流れが変わって港が機能しなくなったので新潟町を移転させたいと幕府に申請します。移転先は**寄居島**、**白山島**で、長岡藩は「寄居村」から耕地を取り上げ、代わりに後の寺町裏手の古川跡（**図2のA周辺**）を与えます。これは信濃川の分流で、この頃にはほぼ埋まっていたと考えられます。また、「白山島」から神社地を除く社領を取り上げ、代わりに平島村の一部を与えました。

移転は明暦元（1655）年にほぼ完了します（**「明暦の移転」**）。町割りは、それまでの「古新潟」のものをあまり崩さずに作られ、交通の動脈として南北方向に「片原堀（東堀）」「寺町川（西堀）」と「通り」を、東西方向には5本の「横堀」と小路を設けました。このときできた町が、現在の新潟市の中心部です。

図2●元禄11（1698）年の絵図に見える古新潟町（「蒲原新潟立会小絵図」から作成）

幕末・明治初めの資料をもとにした、移転以降の新潟町の鳥瞰図（新潟市歴史博物館みなとぴあ展示物）。今と同じ町並がわかります。

3 砂との戦い・新潟町と寄居村

移転後も土砂の堆積は続き、河口の新しい土地と海岸の砂丘は増え続けていました。当時は信濃川寄りを**浜手**、海岸寄りの砂丘地を**山手**と呼んだそうです。

嘉永年間（1848～54）頃、仲（すあい）役所の手代が**寄居村**から土地を借り家を建てます（**図4のB**）。ここは**砂丘の高台**で、一番最初に朝日があたることから**朝日町**と名付けられました。現在の**旭町**の始まりです。

砂丘の増大は、深刻な飛砂被害をもたらしました。明暦の移転で**現在の寺裏通周辺（図2のA）**へ移された**寄居村**は、元文・寛保（1736～44）頃、飛砂被害から逃れるために現在の**新潟大学医学部付**近へ移転します。しかしここでも被害にあい、明和・安永（1764～81）頃に**現在の寄居町の場所**に移りました。

飛砂対策の**砂防林事業**は、元和3（1617）年、当時新潟を統治していた長岡藩主・**堀直寄（なおより）**による植林が始まりとされていますが、本格的な造成は町の人たちが奉行所に願い出て植林を始めた宝暦年間（1751～63）以降でした。天保14（1843）年、幕府領となった新潟町の初代奉行・**川村修就（ながたか）**も事業を継続し、翌年日和山から願隠寺周辺に松苗を植え付けさせました。

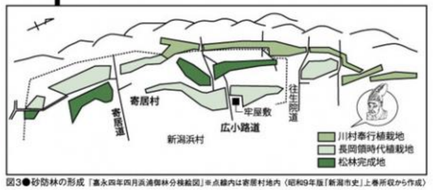


図3●砂防林の形成（「嘉永四年四月浜通傍林分検絵図」※点線内は寄居村地内（昭和9年版「新潟市史」上巻所収から作成）

図4●慶応2（1866）年新潟町の町名と小路名（「新潟市史 資料編2」から）

4 開化政策の舞台・坂の上の町

安政5（1858）年、新潟は日米修好通商条約で開港場のひとつに指定され、戊辰戦争後の明治元（1868）年に開港します。明治5（1872）年に最初の新潟県令（後の知事）として着任した**楠本正隆（くすもとまさたか）**は、治安維持、衛生環境の整備など次々と**開化政策**を進めていきます。町を用途によって分け、景観の整備にも取り組みました。

町の西南の砂丘地から白山神社の地区は**文明開化を象徴する建物の並ぶ地区**として、**医学校（新潟病院）・新潟学校・師範学校**など大きな洋風の建物を建て、町名も**医学町・学校町・学校町通**と名付けました。住宅街にも地域によって建物の基準を設け、統一感のある町並づくりを行っています。また、白山神社の境内にあった蔵や小さな社を取り払って、花壇や樹木を配した日本最初の都市公園**新潟遊園（現在の白山公園）**を開園しました。

明治14（1881）年の「新潟港実測図」（図5、新潟大神宮所蔵）には、今とほぼ同じ位置にある砂丘が描かれています。また、絵師・吉田初三郎が描いた昭和12（1937）年の新潟町の鳥瞰図（図6）には、白山公園と坂の上に並ぶ学校や病院などの洋風の建物が生き生きと描かれ、楠本鼎令が目指した**開化の町並み**のその後がよくわかります。

図5●明治14（1881）年新潟港実測図（部分）（新潟大神宮所蔵）

図6●昭和12（1937）年頃の新潟市（部分）（日本海大博覧会事務局「新潟市鳥瞰図」吉田初三郎画）★

5 新潟町と寄居村の境に並ぶ「寺町」

古い歴史がある新潟町のお寺（表1）が、現在の西堀通沿いに並ぶようになったのは**明暦の移転**の時とされています。当時ここは**新潟町と寄居村の境の場所**でした。図4には寺町通（現在の西堀通）に並ぶ慶応2（1866）年のお寺が記されていますが、昭和12（1937）年の吉田初三郎の鳥瞰図（図6）にも、同じ場所にあるお寺のようすが詳細に描かれています。現在では、西堀通6番町のNEXT21の展望室から町の中に一列に並ぶ**寺町**を一望することができます。初三郎の絵と比べてみるのも楽しいですね。

平成22（2010）年、新潟市は**西堀寺町**に、お寺の歴史やお寺にまつわるできごとを紹介する**案内板**を設置しました（裏面地図参照）。様々な史実の舞台となってきた寺町散策のナビゲーターとして、どうぞご活用ください。

古町通13番町、湊小学校屋上からの寺町の眺め

NEXT21の展望室から見た寺町。左が下町（信濃川下流）方向、右が上（上流）方向

案内板

	宗派	寺院名（現住所）	創立・転入時期・備考
上杉氏の時代	浄土	長善寺（西区）	天文2（1533）年 元亀2年移転説あり
	曹洞	法音寺（西区）	天文3（1534）年 出羽で開基
	浄土	善導寺（西区）	天文3（1534）年 開基僧天文16年没の説あり
	曹洞	瑞光寺（西区）	永禄3（1560）年
	天台	不動院（西区）	永禄年間（1558～70） 永禄年間中興説あり
	真言	真観院（西区）	元亀2（1571）年 元亀2年中興説あり
	日蓮	長照寺（西区）	天正3（1575）年
	真大	真宗寺（西区）	慶長1（1596）年 加賀で開基→秋田→新潟と移転
	曹洞	宗徳寺（西区）	慶長1（1596）年 天正年間開基説あり
	真大	真浄寺（西区）	慶長2（1597）年 信州赤沼村で開基
1598 秀吉没	浄土	往生院（西区）	慶長3（1598）年 慶長中若松から移転説あり
	真大	勝泉寺（西区）	慶長8（1603）年 加州安宅で開基 慶長10年移転説あり
	真大	泉性寺（西区）	慶長9（1604）年 慶長9年弥彦往村山から移転説あり
1610 松平忠輝	真言	光林寺（西区）	慶長11（1606）年 会津若松で開基 一時期に広在伝承あり
1616 徳川幕府	真大	正福寺（西区）	慶長年中（1596～1615） 信州和田村で開基 天正3年移転説あり
元和の町建て			
1618 牧野忠成（ただなり）	真大	願念寺（西区）	元和4（1618）年 加州今浦村で開基
	真大	超願寺（西区）	元和5（1619）年 加賀→佐渡→新潟と移転
	真大	浄泉寺（西区）	元和5（1619）年 加州鹿村で開基 慶長2年移転説あり
	真言	本浄寺（西区）	寛永7（1630）年 加州大聖寺
	真言	宝亀院（西区）	寛永15（1638）年 越前で開基 加賀から来たとの伝承あり
	日蓮	本覚寺（西区）	寛永年間（1624～44） 佐渡で開基 天正初年佐渡から移転との伝承あり
町民の移転			
1655 牧野忠成（ただなり）	真言	北山弥光寺（西区）	明暦年間（1655～58） 佐渡で開基 中古鳥屋野村から移転説あり
	真言	蓮原弥光寺（西区）	寛文11（1671）年 佐渡で開基

表1●新潟町の寺町 寺院の開基・転入年（原則として昭和9年刊行「新潟市史」を基本にしたもの）
真大＝浄土真宗大谷派・真本＝浄土真宗本願寺派　宝亀院成立年代は僧賀修が白山社別当を命じられた年とした

新潟の町 坂道めぐり

白山公園から新潟大学医歯学総合病院前の坂を上り、楠本県令が目指した「開化の町並」のあとをたどります。坂と町に色濃く残る、歴史や人々の記憶に出会うショートトリップです。

白山公園にいるワシにも会いにきてくれ給えよ。

そういうあなたは県令・楠本正隆さん。

白山公園を通らせた楠本県令像(右)と新潟遊園碑(左)は公園内の「美由紀貨岡」にあります。熱い思いの碑文は必読!

白山公園 市役所 老松

江戸時代の初め、白山神社境内から現在の学校町・白山浦周辺は千本松原と呼ばれるほどの松林でした。現在の新潟市役所本庁舎前の2本の老松は、松原名残のもの。明治時代に物産陳列館が建ち、昭和には新潟県庁、平成になって現在の市役所と建物は変わりましたが、松はずっと変わらず大切に保護されています。

明治の物産陳列館(後、新潟縣物産陳列所と改称)と昭和の3代目新潟県庁絵葉書★

新潟県庁時代の絵葉書。バスの奥に交番、右手に医科大学。★
下は絵葉書と同じ位置から見た現在の新潟市役所に松

ワシは800年も前から町を見てきたんじゃよ〜。

明治14年の「新潟港実測図」(新潟大神宮所蔵)に、現在の道と建物のおよその位置を記入したものですニャ。エキサイティングな坂道へ、さぁ、どうぞどうぞ。

老松さんにはかないませんが、新大の我々も案外古参なんですよ。

ねー。

新潟病院絵葉書★

坂の上の町 開化の取り組み

現在の新潟大学医歯学総合病院前から先の坂の上の町は、楠本県令の開化の取り組みの大きな舞台でした。

明治6(1873)年、楠本県令の命により新潟病院が外国人医師を迎えて開院、併設の医学校は学生に西洋医学を教えました。同12(1879)年、医学校が県立新潟医学校になり、病院は医学校の附属施設になります。しかし県の財政難で21(1888)年3月に医学校が廃校になったため、4月に新潟区が区立病院を設立、翌年の市制施行時に新潟市立新潟病院となります。

明治43(1910)年、新潟医学専門学校が南山(現在の旭町通1)に開校すると、市立病院は学校附属の新潟医学専門学校付属医院になります。大正11(1922)年医科大学に昇格し官立新潟医科大学として開校、現在の新潟大学医学部の前身となります。

新潟医科大学(上★)、現新潟大学医学部(下)。「赤門」と寒さ厳のまま

新潟医科大学附属病院(上★)、新潟大学医歯学総合病院(下)。坂と松に名残がありますニャ

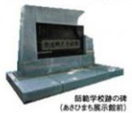
医学町通2(いこい公園横)の新潟県医師会館の前にある「新潟醫學所跡」碑。

病院の入道院入り口前にはギリシャのコス島から来た「ヒポクラテスの木」。路面にも注目!

洋風建築の巻常師範学校★

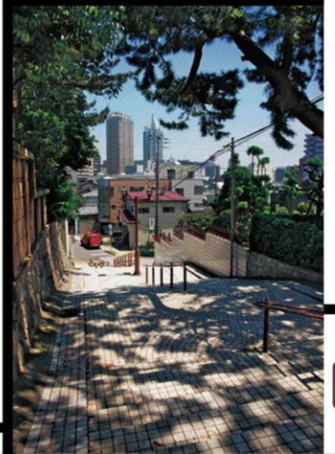
巻常師範学校跡前の坂道

明治8(1875)年、医科大学の隣(学校町通2・現新潟大学医歯学総合病院敷地)に、教員養成の官立新潟師範学校が完成しました。後、官立師範学校は廃止され、同19(1886)年に新潟県尋常師範学校が開校します。学校町通の校舎は明治23(1890)年に焼失し、26(1893)年に旭町通2(現あさひまち展示館の場所)に移転しますが、41(1908)年の大火でこれも全焼したため、43(1910)年に当時最先端の洋風建築で立て直しをされました。



師範学校跡の碑(あさひまち展示館前)

しょうこん坂



左は「越后新潟真景・招魂場」という錦絵。背景は当時の新潟町です。景色のよい名所だったんですね。現在は跡地からNEXT21が望めます。

明治元(1868)年、戊辰戦争の戦死者を祀る新潟招魂社が旭町通に造営され、多くの人が訪れました。しかし昭和20(1945)年、招魂社に変わる新潟県護国神社が西船見町に完成したため旭町の招魂社はなくなり、名前に由来を持つしょうこん坂だけが残されました。

旭町通は砂丘地の高台で、一番最初に朝日があたることからこの町名がついた(裏面「砂との戦い」参照)、寄居村の土地でした。しょうこん坂を下った先にある護国神社は、寄居村の開拓とともに創立したという歴史のある神社です。境内は閑静で落ち着いた雰囲気ですが、昔は祭りの時にここで花火があがっていたそうです。

招魂社の絵葉書★

絵葉書の階段がそのまま残っている招魂社跡地。シックでしょ。

こちらが護国神社。鳥居の奥に私たちがいるわ。

私たち、護国神社の四本松シスターズです。左はしょうこん坂!

寄居坂

明治5(1872)年、政府直轄軍兵士が居住する営所が現在の寄居中学校周辺に設けられます。わずか2年後には廃止されてしまいましたが、営所通という名前は残りました。

営所通は海岸方向へ向かって海岸砂丘を上るゆるやかな坂道で、寄居坂とも呼ばれています。

営所通からほど近いボケットパークに、医学に貢献した2人の先生の像があるポ〜。

新潟営所

新潟医学専門学校の創立と大学昇格に尽力した澤田敬義(けいぎ)像は営所通パークに(左)、不妊治療の研究で名高い長野久作(きゅうさく)像はオギノ公園に建っています。2人とも明治から昭和にかけて新潟で活躍し、名誉市民となっています。

現在の寄居坂と寄居中学校。寄居坂から海に出る手前に、招魂社にかわってできた護国神社があるニャ。

むこうはシーサイドへ?

新潟町はたびたび大火に見舞われました。明治13(1880)年の大火では、旧奉行所(現在のNEXT21)の建物を利用していた初代県庁も焼失し、東中通1(「しょうこん坂」下付近)へ移転しました。ちなみに県庁は昭和7(1932)年に学校町通(現在の市役所)、60(1985)年に現在地の新光町へ移転します。

明治41(1908)年には2度大火があり、市中心部の大半が燃えてしまいました。県尋常師範学校が焼失したのもこのときです。これを機に、西堀通で行き止まりだった小路(裏面・図4)の延長工事が行われます。

柾谷小路は道幅を広げ海岸の方まで延長され、鍛冶小路は法音寺境内を抜け県庁の裏手(東中通1)まで通されました。西堀通を挟んでかぎの手になっていた新津屋小路と営所通はまっすぐ接続され、また東中通も南浜通とつなげられました。

二代目新潟県庁(上★)と現在の東中通1周辺(下)

大正8(1919)年、新潟高等学校(旧制新潟高等学校)が開校します。校舎は西大畑町にあり、後に新潟大学に継承されました(現在は新大附属小中学校敷地)。西大畑町のドッペリ坂の上には「六花寮」という学生寮があり、坂の下の繁華街に通っていると落第するぞ!という意味で、ドイツ語のドッペルン(二重にする、落第の意)にかけたこの名がついたそうです。ちなみに坂の階段は59段。及第点に1つ足りないというオチつきです。

新潟高等学校★と跡地にある石碑

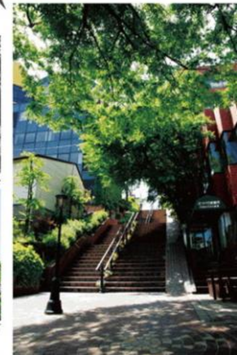
ドッペリ坂

ドッペリ坂の下には異人池と呼ばれる池があり、新潟カトリック教会はその隣に建っていました。教会の現在の聖堂は昭和2(1927)年に献堂されたもので、池のほとりから教会を望む絵葉書が残されています。池は枯れてしまって今はもうありませんが、異人池という名前は残され、聖堂も当時と変わらぬ佇まいで同じ場所にあります。

ドッペリ坂、階段数えてみますか?

新潟カトリック教会の絵葉書★

現在のようす



旭町から西大畑周辺の坂の上には、多くのお屋敷があります。商業地である新潟町では、通りに面して商いをする店部分、その奥が住まいという家が一般的で、通りと関係を持たずに敷地の中に建つようなお屋敷はあまりありませんでした。明治から大正にかけて警所や学校、官庁などができると多くの人が流入し、こうしたお屋敷も高台の砂丘地に増えていきました。現在一般公開されている西大畑のお屋敷**旧日銀新潟支店長役宅「砂丘館」**は昭和8(1933)年に、**旧市長公舎「安吾風の館」**は大正11(1922)年に建てられたものです。

旧日銀新潟支店長役宅「砂丘館」(左)
旧市町公舎「安吾風の館」(右)

浜寄り砂丘

砂丘館の門を背にして左方向にゆるく下りながら延びていく道(写真上)は、両側に砂丘の高台があります。ここでは、道を挟んで海側を「浜寄り砂丘」、町側を「町寄り砂丘」と呼んで、両方の砂丘を歩きます。

ちょっとハードな坂道もあるから、無理せずマイペースでどうぞ~。

二葉町界隈

地獄極楽小路から先の坂が。まっすぐ行くと二葉中学がある浜に出るポポ~。

かっこいい坂や階段がたくさんあるのニャ。想像以上に高さがあって、びっくりするニャー。

田中町界隈

坂と階段を堪能したら、そろそろ浜を目指すわニャー。

日和山展望台

たくさんの砂と、長い時間が積み重ねられてきた新潟町の砂丘。人々の暮らしや町の姿に大きく影響を及ぼしてきたこの砂丘を歩くと、町の成り立ちそのものを間近に見るように思えてきます。港町の象徴・**日和山**や**砂防の松林**、坂上の**文明開化の町並み**、そして**寺町**。マップを片手に、新潟の町なかトリップへぜひお出かけください。

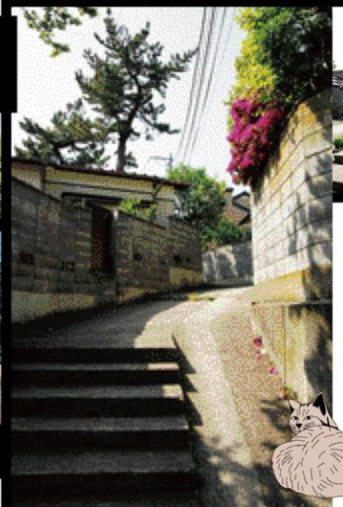
船の水先案内発祥の地・日和山の脇の道も、浜寄り砂丘を上る道ニャ。海岸にある日和山展望台から町を見ると、浜への道や松林がよくわかるニャよ。

日和山

町寄り砂丘

新潟大神宮

脇の道路から見た新潟大神宮。道路の向かい側には、旧齋藤家夏の別邸があり、地形のようすを積み見ることができます。新潟大神宮の境内には、生家が隣接していた作家・坂口安吾の生誕碑があります



御林稲荷社

砂防林の植栽に際して創建されたという御林稲荷社。とても雰囲気があります。

新潟大神宮と**御林稲荷社**は**町寄り砂丘**の上にありますが、**旧齋藤家別邸**と**老舗料亭の行形亭(いきなりや)**は砂丘を背にして建てられています。建物もさることながら、どちらのお庭も、砂丘の地形を生かした見事なものです。

行形亭から北に位置する**西大畑公園**と**新潟市美術館**も、同じ砂丘列を背に立地しています。

これは御林稲荷社近くの坂と階段。魅力的ニャワー!

豪商の別荘だった旧齋藤家別邸。老舗料亭・行形亭と隣接していて、2棟並んだ正面の通りは「白壁通り」と呼ばれています。

旧齋藤家別邸

白壁通り

旧齋藤家別邸~新潟市美術館

老舗料亭・行形亭の隣には昔刑務所がありましてね。一方は極楽、一方は地獄。いつしか間の小路が「地獄極楽小路」と呼ばれるようになったというわけです。

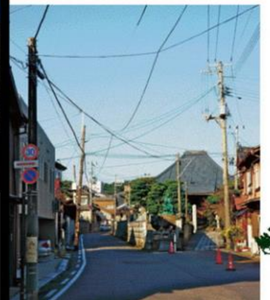
刑務所の跡地は今の西大畑公園。レンガに少し名残があります。上は砂丘方向から見た美術館と西大畑公園。松がこんもり~。

蒲原小路往生院道

こちらは蒲原小路の坂。砂丘の形がわかる、路面のゆるーいカーブにご注目!

往生院からの道を、浜寄り砂丘から見たところじゃよ。ぐーんと高くなってるのがわかるの。

蒲原小路を歩くと、途中で**町寄り砂丘**の坂道になります。**大仙寺**周辺では路面の盛り上がりにご注目を(左下写真)。1本下(しも)の**往生院脇の浜へ続く道**(下写真)は、慶応2(1866)年の地図にも記されています(裏面の図4)。当時はどんな景色だったのでしょうか。**町寄りと浜寄り**、2つの新潟砂丘を足で体験できる道です。



日和山共同墓地には澤田敬義先生、荻野久作先生のお墓もあるんじゃよ。のんびり、ゆっくり歩くのがおすすめじゃ。

薬王寺 日和山共同墓地

清小学校の裏手のこの道も、まっすぐ浜に続いている。松林に覆われているところは、薬王寺と日和山共同墓地じゃよ。

日和山から見た海岸方向の眺め(「新潟名所絵葉書」)★